

国際ロータリークラブ 2570 地区第4グループ
本庄ロータリークラブ週報
クラブテーマ「和顔愛語」



インスピレーションになるう

No.56-42 第2706回 第3例会 2019年5月23日(木)

会長 五十嵐敦子 会長エレクト 茂木聡

副会長 井河彰久 巴高志 野田貞之 幹事 金井福則

2018-2019年度国際ロータリー会長 バリー・ラシン

第2570地区ガバナー 茂木正

会長の時間



移動例会として5月12日に開催されました本庄総合公園春まつりにご参加、ご協力ありがとうございました。19日には次年度の地区研修協議会が開催され次年度の方針、方向性が打ち出されました。本日例会後、クラブ協議会にて報告されますのでどうぞ最後までご出席をお願い致します。5月は「青少年奉仕月間」です。本日の「会長の時間」は、青少年の為の育英資金「バギオ基金」「バギオ奨学金」についてお話し致します。まず、バギオ基金の歴史、生い立ち、背景からお話したいと思います。バギオはフィリピンの首都マニラから北に約250km標高1,500m、人口30万～35万人の学園都市です。フィリピン第2の都市と言われ、気候は日本の軽井沢のようです。1903年(明治36年)ロータリーが出来る2年前、日本人125名を乗せた客船がフィリピン・マニラ港に錨を降ろしたのが始まりです。その当時バギオには道らしき道がなく、山を切り開いて、道を作る道路工事は大変な作業でした。日本人はまじめで勤勉であることから、日本人労働者が募集され、最初に労働者として日本人125名がマニラにやってきたのです。その厳しい作業は、50mの長さの道路を作るのに一人、人柱が出来るほどの難しい工事でした。1903年～1905年日本人労働者によって無事完成しま

した。延べ2,000人の日本人労働者が工事に関係し、約700人の人が犠牲になったと言われています。その後、日本に帰国しなかった日本人は現地の人と結婚してフィリピンにしっかり根をおろし、各地に豊かな邦人社会を形成し幸せに暮らしていました。1939年第二次世界大戦(太平洋戦争)が勃発し、6年後敗戦を迎えました。日系フィリピンの人達は激しい報復と迫害を受け、バギオの山の中に逃げ込み、日本人であることをひた隠してひっそりと生活をしていました。日本人の孤児達は山の中で動物のような生活をし、その生活の悲惨さは想像を絶するものだったそうです。そんな悲惨な日系フィリピン人に救済の手を差し伸べたのが、シスター海野さんでした。海野さんは静岡市の生まれで、還暦を機にフィリピンの貧しい人々の為に余生を捧げる為1972年マニラのマリア宣教者フランシスコ修道院に赴任してきました。シスター海野さんはバギオの道路開拓には日本人労働者が活躍した事や、その後の彼らの境遇を聞き、彼らの子孫は今どこでどうしているのだろうと心を痛めました。そして手あたり次第に日系人の消息を尋ね歩き一人二人とその存在を明らかにしていきました。

「もう日系人だと隠さなくても大丈夫。これからは皆で助け合っていきましょう」とシスター海野さんの言葉に、日系人の人々は声をあげて泣いたと言います。そして「何か私にできることはないの?」と言うシスター海野さんの言葉に、彼らは「子供達の教育のことが心配だ」と答えました。ほとんど定職を持たず食べて行く事もままならない彼らにとって、学校の授業料は大変な負担でした。「この恵まれない日系人の子ども達に奨学金を提供し、この国の為にな有意な人材を育てるお手伝いの協力をお願いできませんか」と東京RCに相談がありました。当時、日本のロータリークラブの東京は258地区として1つの地区でした。そこで世界社会奉仕事業(WCS)(海外に向かったの社会奉仕)の活動の

一環として、バギオを取り上げました。勿論、現地バギオのロータリークラブの協力も得て、準備期間3年をかけて1981年9月「バギオ基金」が設立され今日に至っています。この奨学金制度は日系の子弟に限らず、フィリピンの一般の子ども達にも手を差し伸べ育英資金を提供し、勉学を援助し、日本への留学を支援しています。バギオ基金第5期留学生「カルシ・レイニャールショ君」という大学生がいます。ほとんどの留学生は、日本に来た理由を「日本や日本語に興味があったから」とか「文化が好きだから」と答えます。彼は違いました。彼は、自分のお婆さんの人生を知ったから、日本に留学したのです。彼のお婆さんは父親が日本人、母親がフィリピン人でしたが父親の顔は、写真ですら見たこともなく、自分自身がどうして生まれたのか、どういう存在なのか、知らずに生きてきました。お婆さんは第二次世界大戦が始まる前に生まれ、戦争を自分の目で見て、苦しみを体感しました。戦争中は、日本人の子孫であると言う理由だけで殺されます。日本の

軍隊に近づいても殺されます。まるで、虫けら以下の存在であったそうです。お婆さんは、何とか生き抜いて終戦を見届けました。戦争が終わったら、平和で明るい世界になると思ったのですが、それは大間違いでした。戦後、日本人の血が入った子供達は、フィリピン人から迫害を受けることになりました。みんなは、平和な世界に生きているのにまるで戦場に置いていかれたような現実の中で生きてきました。フィリピンと日本のどちらの世界でも権利を持たず、涙が枯れ果てるほど苦しい人生だったそうです。カルシ君はお婆さんの人生を知って、彼は日本が嫌いになりました。その時、お婆さんは明るい笑顔で孫のカルシに言ったそうです「嫌われた時代は過去のこと。憎しみを今、そして将来の世界に持って行ってはいけないよ。日本とフィリピンのどちらの世界も歩めるようになりなさい」彼はそこからお婆さんの言葉通り、日本とフィリピンのどちらでも歩いていく為に努力を重ね、バギオ基金奨学金によって日本の大学で学ぶことが出来ました。

ニコニコBOX フリーメッセージ

お久しぶりにお伺いました。先日地区研修協議会の司会をさせていただきましたが苦労しました。 栗山昇

健康診断のため早退させていただきます よろしく 飯塚明男

先日の、5月第2例会春まつりでは、多くのみな様にご参加いただき有難うございました。 櫻井祐治

定番メッセージ

本日はクラブ協議会「次年度地区の方針」です。会員の皆様よろしくお願ひ致します。

五十嵐敦子 金井福則 永井保之 矢島淳一 鈴木元道 茂木聡 坂本雄一 巴高志
相川浩一 佐藤智子 渋谷修身 茂木正 春山茂之 岡崎正六 坂田清茂 八木茂之
鈴木純 櫻井祐治 飯塚明男 栗山昇 渋澤健司 須田礼子 井田正志

出席率発表

会員数	出席免除会員	出席義務会員数	出席会員数	出席率	本日 MU 数	出席率修正
80	2	78	42	53.8%	32	94.9%

次回プログラム発表

第4例会 2707回夜間例会 5月30日(木) 点鐘:18時30分
場所:埼玉グランドホテル本庄 国際大会参加に向けての壮行会
第4回ゴルフコンペ表彰式

公共イメージ委員会 高橋順容委員長・堀野健太副委員長・戸谷清一会員・橋本和也会員 ■例会日 毎週木曜時 12:30~13:30 ■事務所 埼玉グランドホテル本庄 700号 〒367-0041 本庄市駅南 2-2-1 TEL0495-22-7522	■例会会場 埼玉グランドホテル本庄 Eメール honjorc@themis.ocn.ne.jp ホームページ http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html
--	--